

雷が鳴った夜の想い

テレビのコマーシャルによると、日本人の7割が睡眠に関して課題を抱えており、睡眠不足に悩まされているそうです。そのためにちょっと余裕があるとどこでも居眠りしてしまいます。—それを知ってから少しほっとしました。説教をしている時に居眠りしている方の割合はそこまで至っていないようです。—つまらない冗談ですがそれにしても説教を仕上げるのに 自分には5～6時間もかかるというのに、一部の方は10分くらい頑張って聞いてくださることができないことを思うと少し寂しく感じます。—しかし疲れのために居眠りしている方を責めるわけにはいきません。自分がもっと役に立ち、関心を引き起こす話をしなければならぬと反省し、新たに気を引き締めるように心がけています。＝私たち司祭の説教に対する信徒の皆さんの注文は様々です。「説教は聖書についての話ばかりだから、なかなか感動できません。」「説教は実生活とかけ離れているため役にたたず面白くない」などと。

●耳の痛い話ですがそれを払いのけるわけにはいきません。真摯^{しんし}に受け止めて、信徒の皆さんの期待に応えるように心がけるほかはありません。「福音の喜び」という^{かんこく}勧告の中で教皇フランシスコはそのこ

とについて貴重な助言を述べています。
（「福音の喜び」120～142 ページ）

＊ところで、もともと、どうして「説教」（オミリア）は必要なのでしょう。何のためにあるのでしょうか。—感動させる素晴らしい話でしたら大いに役に立つでしょうが、感動させることは「説教」の目的ではありません。「説教」は聞いている一人ひとりが、自分の信仰生活について考え、信仰生活を養うことができるためにある話です。したがって聞いて居る人にも、積極的な努力が求められているということです。「説教」は聞いている一人ひとりが自分の信仰生活を真剣に省^{かえり}みるための一つの呼びかけです。—言い訳のように聞こえるかもしれませんが、話す側と聞く側両方にも努力することが求められています。



＊いろんな分野に当てはまることですが、「説教」についても考える時に私たちは皆確認しなければならないことが一つあると思います。それは「宗教」と「信仰」の違いと関わり合いに対する私たちの理解です。キリスト教を含めて、「宗教」は一つの「形」「型」であって、人が作ったものです。「信仰」は違います。

＝「私は『宗教』にそれほど興味がありません。西欧の『宗教』を広めるために司祭になり、日本にまで来たものではありません」と。人の反応を惹き付けるために初めてわざとこの極端な発言をした時、聞いていた方々の様子を注意深く伺いました。—
呆気^{あっけ}に取られた様子から 顔をしかめるまで、口を開けて不平を言いたそうな様子から 関心をそそられ 輝く瞳まで、実に反応は様々でした。—言うまでもありませんが、後にこのような挑発的な発言を よく説明しなければ、人の理解を得ることは難しいことです。それは承知の上ですがそれを機会にして非常に大切なことについて真剣に考えることができるようになると思います。

—下五島の久賀島の「牢屋の窄」の殉教記念聖堂で何回か感謝の祭儀を行いました。その度ごとに思いました。「日本で殉教した大勢のキリスト者は、西欧の『宗教』のために命をささげたのか。それともイエス・キリストの御父への『信仰』を証しするためだったのか」と。私の答えは明らかです。

●私は好んで「宗教」を 贈り物を包んでいる「包装紙」にたとえています。「包装紙」は「贈り物」ではありません。その違いと関わり合いをよく識別しなければそこには落とし穴が潜んでいるかもしれません。「包装紙」は「贈り物」の不在を隠しかねないということです。

＊イエスは父である神の御心を人々に告げ知らせ、人となられた神として救い、命と幸せへの道、神の国への道を案内するためにおいでになりました。イエスは御父である神への「信仰」を呼びかけました。

●イエスに呼ばれた「12人」の弟子たちはイエスが「メシア」であることを信じることによってイスラエルの民の信仰が完成されたことを確信しましたが、新しい「宗

教」を作ろうと考えていなかったようです。—ところが、イエスの「福音」がもたらしてきた「新しさ」のために、彼らは次から次と様々な問題に直面し、反対に遭い—特にユダヤ教から正式に排除され、立て続けに思いがけなく起こってきたことに対処するにつれて、イエス・キリストを信じる人たちだけ（「キリスト者」：使徒言行録11、26）の独特な共同体を築き上げました。—その勢いで、時とともに様々な国と文化の中で発展し 大きくなったイエスの共同体（教会）は、必要に応じて組織を固め、教義を定め 法律を決めてきました。しかしそのために時には「包装紙」が「贈り物」を隠し、イエスの姿がかすみ、福音の本来の「光」が「升の下に置かれた」（マタイ5、15）という事実を否定することができません。—2千年の歴史の間、時には「光」が「陰」に汚染された要因の一つは、「贈り物」より「包装紙」の方が優先されたからです。—どうして組織、教義、法律は教会に必要なのか。それらと優先すべきイエスの共同体の存在の意味と使命をどのように結び合わせるようにすればいいのか、そのことをよく吟味することは非常に大切なことだと思います。それは「包装紙」が「贈り物」を隠さないためです。—

●いくらイエスの名を借りて祈っても、いくらイエスの名を利用してイエスを模範にしてイエスに倣って生き、行動をもってイエスを証ししようとしなければ、イエスの姿が人の目には映らないでしょうし、私たちの存在は イエス・キリストへの「信仰」の呼びかけにもなりません。—

＝皆さんもかけがえのない「贈り物」であるイエスと福音を中心にして考え、行動することができるよう 手助けとなる「説教」を自分が提供することができるために、どうか私のために祈りください。

